

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2021年10月～12月

運用先市場の状況

作成基準日 2021年12月31日

○国内市場

・株式市場

国内株式市場は、下落しました。

10月は、米国でのインフレ懸念や、中国での電力規制や不動産業界の過剰債務問題などがマイナス材料となり、下落しました。月末にかけては、米国での株高や米ドル高・円安などが下支えになったものの、衆議院選挙や企業決算発表の本格化を控え様子見姿勢が強くなり、上値が抑えられました。

11月も、下落しました。月初は、衆院選で自民党が単独過半数を確保したことから政権安定への期待が高まり、堅調な展開となりました。しかし、中国での不動産問題が引き続きマイナス材料になったほか、新たな変異ウイルス(オミクロン型)の感染拡大懸念から、月末にかけて上昇分を帳消しにする大幅下落となりました。

12月は、上昇しました。変異ウイルスの重症化リスクへの懸念が薄らぎ、堅調となりました。月末にかけては、世界中で変異ウイルスへの警戒感が強まりましたが、企業業績が好調な中、円安基調にも支えられ底堅く推移しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

12月末の国内の長期金利(10年国債利回り)は、9月末とほぼ同水準となりました。

10月、長期金利は上昇しました。世界的に中央銀行による利上げが早まる懸念から海外金利が上昇し、国内金利も上昇しました。また、10月末の衆議院選挙に向け、財政政策拡大懸念も国内の金利上昇要因となりました。

11月、長期金利は低下しました。衆議院選挙で自民党が単独過半数を確保、財政拡大懸念が薄らぎました。下旬には、新たな変異ウイルスへの懸念が金利低下要因となりました。

12月、長期金利は上昇しました。変異ウイルスの感染が世界中で拡大したことから、中旬にかけて金利は低下しました。しかし、変異ウイルスによる感染の重症化リスクへの懸念が薄らいだことや、コロナウイルス経口薬の承認が相次いだことから、市場の警戒感が和らぎ、月末にかけて金利は上昇しました。また、利上げ時期の前倒し観測を背景に米国金利が上昇したことなども、金利上昇の要因となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2021年10月～12月

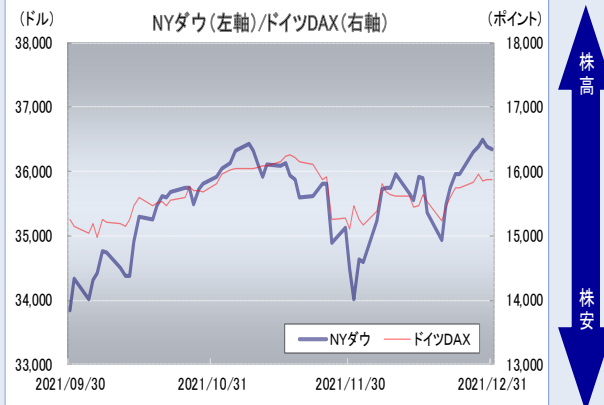
運用先市場の状況

作成基準日 2021年12月31日

○外国市場

・株式市場

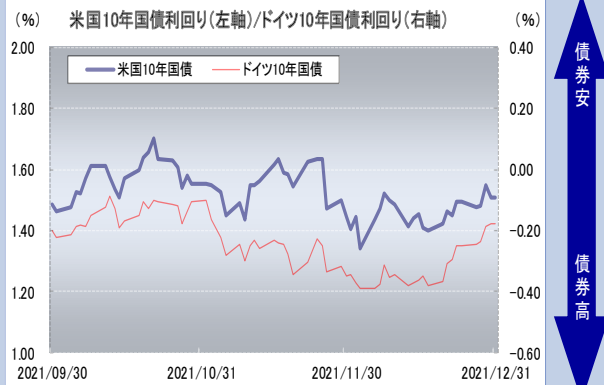
外国株式は、米国、欧州(ドイツ)共に上昇しました。
10月、米国の株式市場は、供給網の混乱が続く中でも概ね業績拡大が続いていることが好感されて上昇しました。また、インフレ警戒感の後退も好材料となりました。欧州市場も、欧州企業の好調な決算発表などから上昇しました。
11月、米国市場は下落しました。月初のFOMC(米連邦公開市場委員会)を経てFRB(米連邦準備制度理事会)がテーパリングを開始したこと、利上げ開始前倒しへの警戒感が下押し要因となりました。また、月末には変異ウイルスが嫌気され、月半ばの上昇分を帳消しにする下落となりました。欧州市場も下落しました。一部の都市で部分的なロックダウン(都市封鎖)が行われたことも警戒されました。
12月、米国市場は、変異ウイルスの重症化リスクへの懸念が薄らぎ、上昇しました。月末にかけては、コロナウイルスの経口治療薬が相次いで承認されたこともプラス材料となりました。欧州市場も上昇しました。中旬にかけて調整しましたが、変異ウイルスに対する警戒感の後退が支援材料となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

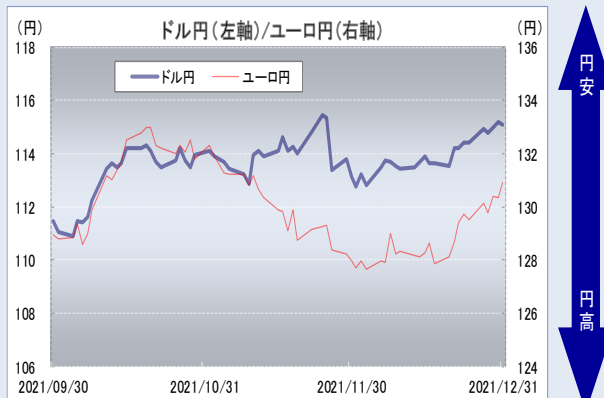
12月末の米国、欧州(ドイツ)の長期金利(10年国債利回り)は、9月末から小幅に上昇しました。
10月、米国では、長期金利が上昇しました。インフレ警戒感が根強い中、早期の利上げに対する織込みが加速し、金利押し上げ要因となりました。ユーロ圏でも、長期金利が上昇しました。米国や英国の金利上昇に連動したほか、ユーロ圏でも先行きの利上げに対する織込みが進み、金利が上昇しました。
11月、米国では長期金利が低下しました。インフレへの警戒感などから金利が上昇する局面もありましたが、月末にかけて変異ウイルスへの懸念から金利が低下しました。ユーロ圏でも、変異ウイルスへの警戒感などから、長期金利が低下しました。
12月、米国では長期金利が上昇しました。インフレへの警戒感が根強く、利上げ時期の前倒し観測を背景に、金利が上昇しました。ユーロ圏でも、長期金利が上昇しました。インフレ懸念の高まりや、ECB(欧州中央銀行)による将来の金融緩和の縮小が意識されたことなどを背景に金利が上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

米ドル/円、ユーロ/円ともに対円の上昇しました。
10月、米ドル/円は、米国の利上げに対する織込みの加速や株価上昇などを背景に、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円も同様に、ユーロ高・円安となりました。
11月、米ドル/円は、一進一退となりました。米金利の上昇が米ドル高要因となる局面もありましたが、月末にかけて米金利が低下に転じると米ドル安・円高となりました。ユーロ/円は、ユーロ圏で感染が再拡大したことを背景に、ユーロ安・円高となりました。
12月、米ドル/円は、米金利の上昇やリスク選好の動きから、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、ECB高官によるタカ派(インフレ抑制を重視する立場)的な発言やリスク選好の動きを背景に、ユーロ高・円安となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。